

## 土地家屋調査士が行う業務データの地理空間情報化についての研究 —位置参照点運営事業について—

藤井 十章

兵庫県土地家屋調査士会 阪神支部 位置参照点運営委員会

連絡先: <fzee@hera.eonet.ne.jp>

- (1) **動機**：我々の情報は、法務局に地積測量図が備え付けられることで地籍情報を蓄積する役目を果たしてきました。空間情報社会へ変化する中で、これからの作業の中で取得されていく業務データを空間情報化する方法を模索することになりました。
- (2) **アプローチ**：平成 17 年の法律改正により、不動産登記規則第 77 条に準拠した地積測量図を作成することになり、DID 地区に限らない世界測地系座標成果による図面作成を新旧・老若男女の土地家屋調査士が対応できる環境作りを行いました。支部で保有する RTKGPS 測量器により、個々の依頼現場の測量箇所にて 2 点観測点（位置参照点：世界測地成果による現地と空間情報を関連づける点）を設置し、そこから境界測量を行って測量情報を取得します。
- (3) **意義**：道路の分筆（境界情報の創設）などに代表されるように、より早く、地理空間情報を取り扱う資格者であり、支部 70 名程度の土地家屋

調査士が兵庫県阪神地区の地図更新データの収集を行います。また、個人事業者間での技術力の格差を軽減し、より正確な空間情報の取得に貢献でき、図面や点の記に詳細な作業方法を明記することにより、後日の境界亡失等による復元作業に最も有効な情報を残すことで、境界紛争の防止にも役立っております。

- (4) **結果**：Network 型 RTKGPS の利用（容易な作業）、サークルタイムの効率化（無駄のない作業工程・組織運営とソフトウェアの開発）、再利用性とデータ蓄積（XML Database スキーム）、高密度な作業と国家予算によらない民間資金による地理空間情報の収集が実現し、空間情報更新データが自動的に集まる仕組みを作り、民間による組織運営で地籍測量情報が取得及び集積できました。今後は、集積された情報整理とともに運用で得た費用を空間情報環境整備への投資ができる運営をめざします。

事業名称	位置参照点運営事業		
組織	名称 兵庫県土地家屋調査士会阪神支部 位置参照点運営委員会 発足 平成 16 年 6 月発足 委員 現在 6 名（支部会員数 68 名）		
使用器械	GPS: トプコン LEGACY-E+ GD Software: 三菱電機 PASSSURVEY(FKP) アイサンテクノロジーPASSSURVEY-V(FKP)		
観測方式	Network 型 RTKGPS 測量 (FKP 方式) 1 秒間隔 10 エポック		
設置箇所	兵庫県 大阪府 滋賀県 和歌山県	西宮市・宝塚市・伊丹市・川西市・尼崎市・芦屋市・神戸市 大阪市・豊中市 大津市 和歌山市・熊野市	
実績	点数	売上高（特別会費）	沿革
合計	304 点	¥2,530,000-	
平成 16 年度	37 点	¥0-	実証実験 規則・要領作成
平成 17 年度	76 点	¥0-	
平成 18 年度	44 点	¥594,800-	
平成 19 年度	45 点	¥628,900-	
平成 20 年度	100 点	¥1,306,300-	

表 1：位置参照点運営事業の実績